

## ジョージア (グルジア) 便り その40

## 『踊りの魂があるところ』

文 高野陽年 text by Yonen Takano



ダイナミックな動きを見せる民族舞踊団のダンサー

『ジョージア国立バレエ』とネットで検索すると、検索の上位に黒い練習着を着たジョージア人のダンサーが超絶技巧の踊りを披露している動画がすぐに見つかる。一見バレエにも思えるが実はジョージアのフォークダンスである。

多くの日本人のファンの方々は彼らも僕の同僚ダンサーだと思っただけだが、実は彼らは僕が働いているジョージア国立バレエ団、オペラ劇場のカンパニーとは違い『ジョージアンナショナルバレエ』というグループである。

おそらく『ナショナル』を国立と訳してしまったがために起こった誤解であろう。ここでいう『ナショナル』はロシア語でいう『ナロードニー、国民の』と訳したほうがしっくりくる。要するにジョージアの民族舞踊団である。何故バレエと名付けたのかは不明だが、舞踊団

の祖であるイリコ・スーキシヴィリが戦後にジョージアの民族舞踊を体系化し舞踊団を立ち上げた際、当時ソ連の第一級芸術だったバレエのようにジョージアの民族舞踊を総合芸術へ昇華させようと名付けたのだろう。

彼らの公演では、民族衣装を着て派手な回転や跳躍、ダイナミックな膝やつま先での着地が男性ダンサーの最大の見せ場であり、剣舞なども取り入れられている。一方で女性ダンサーは対照的に静的な美が特徴的である。無駄な動きを省いた踊りで、エレガントさや所作の美しさを強調し、一列に揃った女性ダンサーのラインが万華鏡のように入り組んでは離れ、その一糸乱れぬ動きが観客を魅了する。ロシアで全ての少女がバレリーナに憧れるようにジョージアでは男女問わず全ての子供がジョージアの民族舞踊団に憧れるようだ。

なぜここまでジョージアの民族舞踊は国民に支持され、それぞれの地方で雰囲気の違いはあっても地域に密着しているのだろうか？

それは、ジョージアが常に戦火に見舞われてきた国だからなのでは、と僕は思う。日本でも戦国時代に武将が舞

いを踊り、『鼓舞する』という言葉があるようにここジョージアでも戦いの前にテンションとアドレナリンを引き出すように踊っていたのではないか。そしてベルシャヤやモンゴル、アラブの外敵に侵略される度に自らの民族性を保つために踊ってアイデンティティを確認したのではないだろうか。古くから踊りというものは神との交信の手段として利用されてきた。神へ踊りを奉納し、勝利を願う。もしくは救済を願っていたのかもしれない。

白鳥の湖が終わり、家路を急いでいると、地下鉄の駅前ではジョージア民族舞踊のダンスバトルが練り広げられている。ジョージアでは踊りが街に溢れている。

## Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

